



初のApple Silicon搭載Macは「Air」の一択



2020年11月11日、米アップルがARMアーキテクチャー（基本設計）の独自CPU「Apple Silicon」を初搭載した新型「Macシリーズ」を発表した。従来の米インテル製CPUからの変更で、「M1」と名付けられた新CPUが、「MacBook Air」「MacBook Pro」「Mac mini」の3モデルに搭載された。この中で一番の「おすすめモデル」はどれだろうか？

スペックは横並びのApple Silicon搭載Mac

新型Macシリーズ仕様表モデル名MacBook ProMacBook AirMac

Miniディスプレイ13インチRetina13.3インチRetinaなしプロセッサ8コア(4x高性能、4x高効率)

Apple M18コア(4x高性能、4x高効率) Apple M18コア(4x高性能、4x高効率) Apple

M1グラフィックス8コアGPU(M1)7コア /

8コアGPU(M1)8コアGPU(M1)記憶容量256GB/512GB/1TB/2TB256GB/512GB/1TB/2TB256GB/5

12GB/1TB/2TBメモリー8GB/16GB8GB/16GB8GB/16GB無線LAN802.11 ax WiFi6802.11ac

WiFi802.11 ax WiFi6カメラ720P FaceTime HD720P FaceTime

HDなしオーディオハイダイナミックレンジステレオスピーカーステレオスピーカースピーカーバッテ

リー58.2Wh49.9Whなし駆動時間20時間18時間なしサイズ高さ156 x 幅304 x

奥行き212mm高さ161 x 幅304.1 x 奥行き212.4mm高さ3.6 cm x 幅19.7 cm x 奥行き19.7

cm重さ1.4kg1.29kg1.2 kg税別価格13万4800円～10万4800円～7万2800円～

スペックを見ると、ほぼ同一と言ってよい。インテルMac時代は上位CPUの搭載やメモリー容量で「格差」をつけていたAirとProだが、Apple

Silicon時代の1号機は同じM1を搭載、メモリーも同容量になった。これはCPUの処理能力が同じなので、ソフトウェアスペース（作業場）となるメモリー容量も同じで問題ないということだろう。

主な違いは無線LANの仕様で、ProとMiniは上位規格の「802.11 ax

WiFi6」を搭載している。オーディオもProはより高音質なスピーカーを採用しているが、日常使いでは気にならない。そもそも音にこだわるのなら、外付けスピーカーを利用すべきだ。

Airがオススメだが、不満も

デスクトップを選ぶならMiniしか選択肢はないが、ノート型と同じ性能というのは物足りない。もともとMiniはそういう位置づけの機種ではあるが、新たにデスクトップのMacを購入するのなら、「M1」の改良系か「M2」が採用されるオールインワン（ディスプレイ一体型）デスクトップの次期「iMac」を待つのが得策だ。現行Miniの買い替えであれば、価格も1万～2万円下がっているApple Silicon搭載機を選択してもいいだろう。

3モデルで買い替えを推奨できるのは、上位機のProとほぼ同機能となったAirだ。バッテリー駆動時間こそ18時間と2時間短い、インテルMac時代の12時間に比べると1.5倍に延びており、実用上は問題ない。

Apple Silicon搭載で下位機のAirと差別化できなくなったPro（同社ホームページより）

Proと同じ8コアGPUモデルを選択すれば12万9800円になるが、このモデルのストレージは512GB、メモリーは16GBに増量する。同仕様のProの価格は15万4800円なので、2万5000円安い。しかも重量は110g軽い。Apple Silicon第1世代はAirの一択と言っていいだろう。

ただ、Airにも不満が残る。重量だ。インテルMacと同じ筐体を流用したため、重量は全く同じ。インテル搭載モデルを併売するProは流用も仕方ないが、AirはApple Siliconモデルのみになった。ならば筐体を専用設計モデルとし、軽量化を果たしてほしかった。

もっともアップルはApple SiliconのM1を搭載した「MacBook」を再投入するとの情報もある。MacBookは2019年7月に販売を終了したが、重さ920 g とシリーズ最軽量機だった。同じ筐体を流用したとしても1kgを切るだけに、登場を期待したい。

文：M&A Online編集部